

次の人のため「早く」

新型コロナウイルス感染者が血中の酸素飽和度を計測し、健康状態をチェックするための機器「パルスオキシメーター」を借りたまま返さない人が多いことが問題になっている。県内の保健所の中には、貸し出した機器の八割が未返却になっているところも。別の保健所では、回収などを担うチームを立ち上げた。医療関係者は「危険な状態なのに自覚症状がない場合もあり、計測は重要。必要な人に貸し出せるよう返却してほしい」と訴える。(細谷真里)

県内の保健所

パルスオキシメーター 指などで、皮膚を通して血中の酸素飽和度を測定する装置。96%を下回ると受診の必要があり、93%を下回ると酸素投与の対象となる。



病院が自宅療養者へ貸し出しているパルスオキシメーター。いつでも返せるよう時間外出入り口にボックスを設置した＝磐田市立総合病院で

「在庫が足りなくなり、貸し出せないこともあった」。磐田市など七市町を管轄する県西部保健所の木村雅芳所長は八日、報道陣の前に困ったという表情を浮かべた。管内では、八月に入って感染者が増え療養用ホテルが満室となり、自宅療養者が最大で六百二十六人まで増加。同保健所は自宅療養者に機器を貸し出しているが、当時在庫は五百個しかなく、足りなくなっていた。短期間で返却してくれた人は一割ほど。電話で催促しても五割ほどの返却率だった。

た。「返却用封筒に貼る切手代や手間がハードルになっているのかもしれない」と木村所長。

同保健所と提携する磐田市立総合病院の鈴木昌八病院長は「感染判明から二週間の経過観察期間が過ぎてもしばらくは不安に思う人がそのまま持っている場合もあるので」と推し量り、「経過観察期間が終わって不安な場合も、二週間ほど数値が安定していれば治ったとみて大丈夫」と話す。九月から機器の管理を担う磐田市立総合病院では、新たに時間外出入り口に二十四時間返却できる専用ボックスを設けた。

沼津市などを管轄する東部保健所では、約七百五十個を保有しているが、経過観察期間中の人への貸し出しも含め、現時点で八割ほどが未返却。担当者は「いきなり必要な人が増えると足りなくなる可能性はある」と気をもむ。

島田市などを管轄する中部保健所では、原則希望者に貸し出しているが、八月上旬に感染者が増加した際、対象者を少し絞った。

静岡市保健所は一時、自宅療養者が増えたため、貸し出しや自宅などへの回収を担うチームを立ち上げた。

磐田市立総合病院の鈴木病院長は「パルスオキシメーターはコロナ陽性者の体調を確認する上で、最も重要な客観的指標。県の持ち物で共有財産でもある。体調が落ち着いたら、必ず返却してほしい」と呼び掛けた。